

東京都図書館協会報

No.89 2009年6月

—平成20年6月24日（火）講演会要旨—

『世界大百科事典を改訂するまで』

(株) 平凡社 取締役・

(株) 平凡社事典制作センター社長

齋藤文雄

ただ今ご紹介いただきました、平凡社の齋藤です。

講演のお話をいただいた当初は、皆さんの前でお話できるようなことがないのではないかと思いましたが、これを機会に、弊社の百科事典についてまとめる良い機会だと思い直して、お引き受けしました。

◎改訂することになった理由

改訂することになった大きな理由からお話しますと、まず、出荷数の減少があります。2001年から2008年の出荷数を見ると、特に2001年から2003年の出荷数が減少してしまいました。百科事典は年間最低500セット売れないと事業として継続できないと言われていました。このままでは重版できなくなるような事態となりました。

一方で平成の大合併が始まりました。2004年から2007年にかけて、市町村の合併が続きます。そのため、百科事典での記述に修正する必要が生じました。

例えば、浦和市、大宮市が合併してさいたま市になりました。刻々と市町村名が変わっていき、百科事典にある市町村の記述が古くなり、どう対処するか、対応に迫られるようになります。一口に市町村合併と言いましても、吸収合併して、市た結果、市町村名が変わってしまった場合、具体



的には、南アルプス市やさいたま市、西東京市等がありますが、それぞれ、記述の修正方法が変わってきます。また、市町村の合併は、他の項目の記述にも影響を与えます。例えば、伊能忠敬の項目で、出身が「下総国」とだけあれば、その項目の修正は不要ですが、「下総国（現佐原市）」とあれば、記述の修正が必要になります。それらをすべてチェックし、修正すべき箇所は修正しなければなりません。

「アイヌ問題」の記述に関して、問題も起こりました。2004年にクレームを受けたのです。差別を助長するような記述をほっておくのか、というような趣旨でした。1984年版のアイヌに関する記述は、ご自身アイヌ出身で、大学の先生をしていた知里先生に記述していただいた部分なので、決して差別意識があったわけではないのですが、2007年に国連で「先住民の権利宣言」が採択されたのを受け、今年、国会でもアイヌ民族を先住民と認める決議が衆参両院で採択されました。このように、アイヌ民族に対する社会の位置づけや、評価が転換し、そのままでは、偏見や差別を助長するような事態になったというわけです。

この時代の価値観の変化にどのように対処すべきかということが、早急に迫られた、というわけです。

◎印刷技術の革新

印刷技術の革新も起こりました。ページの制約からの脱出が可能になったのです。

まず、印刷の発展です。凸版から平版(オフセット)印刷に移行してきました。凸版は、版を凹凸にすることによってインクの乗る部分と乗らない部分をつくり、印刷します。いっぽうオフセットは、版は平らなのですが、油ののるところとはじくところとをすることによって、印刷する技術です。同じく、製版技術にも変化がありました。光学的製版から電子製版に変わりました。光学的製版はフィルムを使用するのですが、電子製版はフィルムを使用しません。プリプレスもフィルム集版からDTPへ変化しました。

今までの方式では、例えば、市町村合併に関する記述の修正でも、「さいたま市となる」といった記述を挿入する場合、行数が変わらなければ問題ありませんが、挿入することで行数が変わってしまう場合が、語句を挿入するページ内で収まるよう、別の項目の文字数を調整して、行数を等しくする必要がありました。これらの作業を、膨大なページ数のある百科事典で行おうとすると、挿絵や図版もあるものですから、本当に大変です。しかし、DTPでは、すべてが電子データになりますから、ちょっとした修正やページを超えるものでも、自動的にその次のページにページ送りをしてくれる訳です。これでページの制約からの脱出ができるかもしれない、ということになりました。印刷会社と相談したところ、百科事典は分量が大きすぎて、既存のDTPソフトでは対応できないことがわかり、新たに検討し開発することになりました。

このようにして、今回の改訂がなったわけですが、率直なところ、「結局は赤字になるのではないか」という危惧は拭えませんでした。「このままではジリ貧だ」とはいえ、売れなくなってきているにも拘わらず、お金をかけて、従来以上の手入れをする。ちょっとした賭ともいえるわけで、

これで失敗したら、いよいよ『世界大百科事典』終わりです。担当者としてはとても心配でした。しかし、おかげ様で、最初の2ヶ月で1,000セットが完売し、その次の2ヶ月でも1,000セットが完売、6月現在、新たに1,000セット印刷しているところで、胸を撫で下ろしました。

◎百科事典とは

それでは、「百科事典」とは、いかなるものなのでしょうか。次に百科事典の歴史をたどってみたいと思います。

まず、西洋の百科事典を見てみます。77年にプリニウスが編纂した『大博物誌』37巻があります。約500名の執筆者、35,000項目がありました。次に6世紀のカッシオドルスの『年代記』、7世紀、イシドルスの『語源論』、12世紀、フーゴの『ディダスカリオン』、近代では、1728年、イギリスのチェンバースの『百科事典』、ほぼ同じ時代のディドロ、ダランベールの『百科全書』、正タイトルは、『一群の文筆家によって執筆された百科全書、あるいは科学・技芸・手工業の解説辞典』というもので、約267名の執筆者によって作られたものでした。西洋の百科事典の特徴は、すべて著者がいるということです。

中国ではどうでしょうか。前5世紀に孔子あるいは、周公旦によって編纂されたという『聖雅』(じが)、前239年、呂不韋の『呂氏春秋』、120年、劉安の『淮南子』、624年、欧陽詢の『芸文類聚』、977年、李昉の『太平御覽』などです。

日本についても見てみましょう。831年滋野貞主の『秘府略』、938年、源順の『和名類聚抄』、近いところでは、1713年、寺島良安による『和漢三才図会』、1879年、西村茂樹による『古事類苑』などです。『古事類苑』は、明治官僚が作らせたものです。これらの特徴は、すべて『類書』ということです。類書というのは、「○○」という本によると、「○○」と書かれている、というような、主観をまじえず、すべて他の本からの引用だということです。研究者にとっては、便利なものとも言えます。

◎百科事典の性格

近代の百科事典の基本的性格について考えてみたいと思います。「百科事典」とは何でしょうか。

百科事典とは、「人類の所有する諸知識を、特定の配列法によって収録し、読者の全般的もしくは特殊な使用に供することを目的とした著作物」ということができると思います。Encyclopaediaの語源は、「円環をなす」という意味のenkykliosと「教育、訓練」という意味のpaideiaが合わさって出来た単語であり、「知識の環」、「体系的教育」という意味になるかと思えます。

ディドロ、ダランベールの『百科全書』を例に、近代の百科事典とは何かということを考えてみると、明確な方法意識、具体的にはベーコンの学問分類論に従い、アルファベット順に配列しながら、体系的知識を合理的に記述しようとしたことにあると考えられます。そのほかにも、専門家に占有された知識を一般に開放するという、権威からの独立、当時の権威と言え、キリスト教や王権、近代になるとブルジョアジーということになるかと思えますが、そういった権威からの独立、知識の全体系を整理して提供する、検索の容易さを保証するアルファベット配列、編集側の特定の世界観の表明等があります。

この『百科全書』以降、各国で編集された百科事典は、多かれ少なかれ、また基本的な世界観に相違はあるものの、上記のような考え方でつくられてきました。

◎百科事典の矛盾と限界

百科事典には、矛盾と限界があります。知識の高度化・大量化、平易な記述というのは、どこまで専門性を保ちながらわかりやすいものを目指すのかといったこと、加速度的に増大する新知識を収容することの困難さ、検索のためのアルファベット配列あるいは五十音配列による、全体と断片との有機的構造の確保などがあります。

『世界大百科事典』の『百科事典』の項目の執筆者は、「百科事典は、時代や国民文化や、より普遍的には人類の知識の、その段階での記念物である」、「そのことについての深甚な理解が、百科

事典制作者と読者利用者、また研究者に対しても同様に強く要求されよう」と言っていて、百科事典を引く側の努力も必要だと説いています。例えば、定評のある、牧野富太郎の植物図鑑は、専門的な図鑑ですが、一般の人には少し難しいと思われれます。むしろ、小学館や学習研究社で出版されている子供向けの学習図鑑の方が、わかりやすい場合があると思います。しかしこのわかりやすい図鑑でも、植物を調べようとする読者には、ある程度の努力が必要で、それなしにはなかなかわからないものです。

◎日本の近代的百科事典の歩み

次に、日本の近代的百科事典の歩みについて考えて見ましょう。1901年、同文館が『大日本百科辞書』を発表しますが、1912年、倒産してしまいます。次いで1902年、三省堂が『日本百科大辞典』の編纂を開始しますが、このときも、1912年ですが、三省堂は破産します。その後、三省堂が再建され、1919年、全10巻で完結します。これは、明治時代の日本文化を集約したもので、高い見識と良心的な編集で高く評価されています。

弊社の百科事典の歴史についても振り返ってみます。

1931年、東大の心理学研究者、木村久一を編集長として、『大百科事典』の刊行を開始し、1935年に完結します。日本の百科事典という視点を明確にした編集で、戦前の日本文化の到達点を示した百科事典と自負しています。1947年には改訂復刊しました。このとき、紙を大量に運んでいた船が沈没して、当時、戦後直後だったために紙が貴重だったので、その沈没船を引き上げて、濡れてしまった紙を乾かして作りました。

1955年には、林達夫氏を編集長として、『世界大百科事典』の刊行を開始します。世界史的視野に立ち、先進大国のみならず後進諸国の諸文化をも軽視せずにとりあげました。特にアジアに関しては、欧米の事典の追随をゆるさぬ内容を盛り込んだものでした。1964年に、改訂新版、1972年に、改訂新装版を出しています。

1985年には、加藤周一氏を編集長に迎え『大百科事典』の刊行を開始します。平和と民主主義

と人権の擁護を基本的な立場として、20 世紀の文化を総決算するものと自負しております。1988 年、『世界大百科事典』の書名で改訂し、2007 年に、改訂新版を出版、これが現在の『世界大百科事典』になります。

およそ 30 年ごとに抜本的な改訂していることになります。

◎「改訂」作業の実際

総ページは、際限なく増やせるものではありません。当然、ページの制約が出てきます。ページの制限が外せなかったときの修正ですが、数行の案内項目を新設したり、欄外の利用や、「アルマナック」と呼ばれる補遺巻の製作で対応します。こういう手段を駆使して、可能な限り、変化する情報に対応しようと苦心します。

しかし、デジタル自動組版の導入により、ページの制限が解除されます。これにより、巻を超えた項目の移動が可能になり、項目の新設がしやすくなりました。

合併した市町村の記述や、人物で、百科事典の出版後に亡くなった方の没年の記述等、修正しなければならない箇所は何百とあります。1 箇所の記述なら簡単ですが、同じ内容が、複数の項目にまたがって記述されている場合、すべて修正しなければなりません。編集部総出で、校正を 8 回しました。校正だけで、半年かかりました。

◎改訂作業で感じたこと

弊社の出版物ですが、『世界大百科事典』のすごさ、ということをお話したいと思います。

1 点目として、時代性があると思います。これは、先代の『世界大百科事典』の影響と 20 世紀後半期の学際性が影響していると思います。

2 点目として、先見性があると思います。技術項目でも、本質的なところでは古さがないことです。

3 点目として、構造の堅牢性があると思います。

このように、堅牢につくられているうえに、執筆者の意向もありますので、なかなか安易に、小手先では手がつけれられません。とはいえ、やはり陳腐化しているところは否めません。改訂では、

どこまでを、どのように手を入れるか、ということがポイントになると思いました。

◎なぜ今、紙の百科事典か

佐藤優(さとう, まさる)氏が、「月刊百科」(2008 年 1 月号)に「改訂新版『世界大百科事典』について」と題して、弊社の百科事典について、書かれているので、ご紹介します。その内容を簡単にまとめますと、次のようになるかと思えます。

1 点目として、信頼性です。自由に書き込めるウィキペディアのようなネット百科は、いろいろな人が書くので、視点が定まっていないものもあります。不安定な情報も載ってしまうかもしれない危険性もあります。それに対し、「編集権」が確立していて、執筆者が明確に存在する「紙の百科」は信憑性が格段に高いということです。

2 点目として、情報の有料性です。タダの情報は、やはりタダの情報で、身につきたいと佐藤氏は書いています。

3 点目として、ネット百科で、百科事典の本来の機能が果たせるか、ということです。歴史をある時点で切り取り、その時点での体系知の構造を提示するという、百科事典本来の目的が保証されないのではないかと佐藤氏が述べています。私ももそのように考えています。

佐藤氏があげた 3 点以外にも、紙媒体である百科事典には、一覧性の便利さや、拾い読みの楽しさといった、紙ならではの利便性や楽しみがあるように思います。

時代によって、百科事典の記述も変化します。さきほどお話した、アイヌの項目の改訂は、時代の変化に合わせて修正したものです。手話も、以前は、ろうあの方のコミュニケーションとしては補完的な役割であり、読唇術が主流とされてきました。しかし、現在は手話がコミュニケーション手段として見直されています。このような時代の変化に合わせて、項目の修正が行われます。

話が変わりますが、朝夕(ちょうじゃく)という職があります。江戸時代に、将軍が縁側に出たら竹筒を出すという職業で、井上ひさしの『おれたちと大砲』という小説に面白可笑しく書かれています。この「朝夕」なんて、引こうとして引く

言葉ではなく、他の言葉を引いて、その近くにあったので、読んでみたら面白かった、ということがあると思います。

徳川夢声という声優家は、ラジオでお伽噺を語っていた人ですが、お伽噺を語るための参考として、当時5円で弊社の百科事典を購入し、高かったと言っています。しかしながら、そのお伽噺を語る際に調べる時には、大変役に立った、元をとったとも述べていました。

百科事典の特徴には、先見性や堅牢性、後世への影響といったこともあります。例えば、マーガレット・ミッチェルの『風と共に去りぬ』は、小説と映画の項目があります。本来は原作である小説に関する記述が大きくあるべきだと思いますが、実際は映画に関する記述の方が大きい。執筆者の意向もありますが、後世への影響という意味では、映画の方が大きいとも言えます。

古いものの情報が詳しいということもあります。例えば、現在働いているシステムエンジニアの方には、ビットとバイトの違いを丁寧に説明できない方もいるのではないのでしょうか。コンピュータは16進法を使用していますが、最初からそういうものであるという前提になってしまっていて、説明できなくなってしまうことがあります。その点、百科事典には、古いことにも詳しい記述があります。

弊社では、だいたい30年単位で、百科事典の抜本的な改定をしてきたとお話しました。この点では、現在の『世界大百科事典』は、すでに初版から20年を超えており、そろそろ次世代の大百科事典を考えなければならぬ時期に来ています。しかし、出版業界が厳しくなっていて、弊社もその例外ではありませんし、加えて、「紙の百科」が従来のように売れず、収支の展望がない。版元に先行投資をする経済力がない、さらに「元がとれそうにない」という現状では、なかなか踏み出せません。

したがって、できるだけ陳腐化しないように、基本骨格を大事にしながらも、時代の変化を反映するように、小規模な「改訂」を重ねていく、というのが、残念ながら、弊社の現在の方針です。ご理解を賜りたく存じます。

質問

Q. 近年では、e-books や携帯小説が盛んになってきていますが。

A. 一部の資料、例えば理系の雑誌や情報誌等緊急性、情報性の高いもの（例えば「びあ」等の雑誌）や携帯小説やコミックのように、携帯の限られた画面でも読むことが可能なものは、電子になっていくだろうと思いますが、デジタル化が進んでも、紙媒体での資料も残っていくと考えています。紙媒体で残っていくものとして、文芸、辞書、辞典類だと思います。

Q. 百科事典を購入した者に対し、ネットで新しい情報を提供する等考えてもらいたい。

A. Japan Knowledge に誘われたことがあります。が、実は、電子版の著作権を他社へ売却してしまったため、弊社で電子版を提供することは難しい。しかし、細心の注意を払っても、どうしても誤りがあったりします。爬虫類が両性類になっていて、修正したこともあります。だからといって、読者からのご指摘すべてを修正するわけではありません。例えば、8月15日が近づく「ポツダム宣言」の項目について、「無条件降伏ではない」というクレームが入りますが、きちんとしたポリシーを持って作製しており、すべて応じているわけではありません。

そこで、大きな修正が発生したときに、ホームページでお知らせする等、なんらかの形で、購入してくださった方へのアフターフォローを考えてみたい。貴重な意見として伺っておきたいと思っています。

出版社と図書館は共通項が多く、共通で取り組むことも考えられると思います。今度ともどうぞよろしく願います。ご静聴ありがとうございました。

平成20年度研究助成交付中間報告

「Big6 Skillsモデルをもとにした中高生のための情報活用指導ワークシートの作成」

私たちのグループは平成20年度研究助成金の交付を受け、平成22年3月までの期間、「Big6 Skillsモデルをもとにした中高生のための情報活用指導ワークシートの作成」を行います。学校図書館が探究型学習に支援する場合に参考になるワークシート作成を目指しています。

学校図書館には、探究学習に必要な問題解決のプロセスに沿って段階的に学習が進められる教材が存在せず、体系的な指導が困難な場合があります。そのような状況を打破するために、私たちのグループも所属する私立中高図書館の自主的な研究会では、実践を持ち寄り『中高生のための情報活用ワークシート』を作成したことがありました。これは、「テーマ設定」「情報の収集」「論文の執筆」などが指導できるよう作成したものです。その編集方法は、問題解決のプロセスである Big6 Skills の順番に沿って事例を並べるといったものでした。

しかし、残念ながらこれは「Big6 Skillsモデルをもとにしたワークシート」と銘打つまでには至っていません。ワークシートが Big6 Skills の順番に沿って並んでいるだけで、本来の Big6 Skills モデルの内容と必ずしも一致しているとはいえないためです。具体的には、Big6 Skills の第一段階と第二段階があまり区別されずに提示されていたことや、すでに多数報告されている欧米の先進的な事例が取り入れられていなかったことなどが挙げられます。また、参考にした事例は限られたメンバーのものでした。その他にも参考になる事例があるはずですが。

そこで、私たちのグループは、広く利用指導の事例収集を行い、米国ですで行われている Big6 Skills 指導事例も取り入れ、これまでの利用指導を再構築したワークシート集の作成を目指すことにしました。すでに約60校の中学や高校に利用指導事例の収集依頼を行っています。海外文献の研究も進め、日本の指導に欠けている事例も発見されつつあります。今後も国内外の事例を参考に編集を続け有用なワークシートの完成を目指します。

なお、協力校には完成したワークシートを配布する予定です。より多くの学校図書館にご協力いただけることを願っています。(問合せ:tkuwata@kokushikan.ac.jp まで)

桑田てるみ(国士舘大学21世紀アジア学部)

眞田章子(かえつ有明中学高等学校図書館)

野村愛子(田園調布学園中等部高等部図書館)

【桑田てるみ 記】

平成20年度研究助成交付中間報告

ライブラリー・グッズの調査・研究と企画・開発
(図書館サービス・ツール研究会)

近年、多くの図書館ではオリジナルグッズを制作しています。大学図書館では学生とともにキャラクターの制作やグッズを開発・活用している事例がみられるようになりました。アメリカ図書館協会(ALA)では、数多くのグッズを作成・販売していることが良く知られています。本研究会では、図書館の広報と利用サービス支援に効果的な手段としてのライブラリー・グッズの現況を調査し、これに基づいて新しい製品の企画・開発・制作を目的としています。

具体的には、公共・大学図書館を対象に、ライブラリー・グッズ作成の有無や種類、作成の目的などに関する調査を行ない、実際にライブラリー・グッズを制作している図書館から実物を寄贈いただくことや、撮影した写真の投稿なども考えています。他方で、ライブラリー・グッズを使用する図書館利用者を対象に、役に立つグッズの種類などの調査を実施します。

こうした調査の結果とライブラリー・グッズの収集を通して、ライブラリー・グッズに関する現状の把握と分析を行ない、理想的なライブラリー・グッズの企画と開発に結びつけていく予定です。

現在は、図書館(作る側)と図書館利用者(使う側)を対象としたアンケートの調査項目を明確にしたうえで、実際に調査を実施しています。方法は、Webベースのアンケートフォームを構築し、予備調査を通して行なっています。とりわけ、図書館利用者への調査には、図書館友の会の皆様のご協力を頂きながら実施しています。

今後、各図書館におけるライブラリー・グッズ作成のアイデアやユニークな実践事例が共有化されていくことを期待しています。

石川敬史(工学院大学図書館)

戸田光昭(駿河台大学名誉教授)

仁上幸治(早稲田大学図書館)

鈴木正紀(文教大学越谷図書館)

武尾亮(女子栄養大学学務部)

青木玲子(埼玉県男女共同参画推進センター)

中島玲子

秋葉小夜子((株)ブレインテック)

【石川敬史 記】

平成20年度TLA総会報告

平成20年度東京都図書館協会総会は、平成20年6月24日(火)午後2時から東京都立日比谷図書館で、出席者32名、委任状提出者460名(定足数312名)で開催された。日本図書館協会松岡要事務局長のご祝辞を披露した後、議長に日本経済団体連合会の村橋勝子氏を選出して、議事が進められた。

1 平成19年度事業及び決算報告

(1)会の運営

ア 総会

日時：平成19年7月13日(金)
午後2時～3時5分
会場：東京都立中央図書館多目的ホール
出席者：26名 委任状提出者：460名

イ 理事会

- 第1回 平成19年5月17日(木)
- 平成19・20年度役員選出(案)について
 - 平成18年度事業報告について
 - 平成18年度決算について
 - 平成18年度会計監査報告について
 - 平成19年度事業計画(案)について
 - 平成19年度予算(案)について
- 第2回
- 平成20年度役員候補者について
 - 平成19年度事業報告・予算執行状況について
 - 平成20年度事業(案)、予算(案)について

臨時理事会

- 研究助成申請の審査について

(2)事業

ア 講演会の開催

日時：平成19年7月13日(金)
午後3時10分～4時30分
会場：東京都立中央図書館 多目的ホール
テーマ：「本の未来はどうなるか? — デジタル化する書物 —」
講師：歌田明弘氏(ジャーナリスト)
参加者：80名

イ 講習会及び見学会の開催

①講習会

日時：平成19年11月30日(金)
会場：国立情報学研究所(学術総合センタービル)
内容：GeNiiの紹介と利用体験実習
参加者：35名(申込者36名、欠席者1名)

②見学会

日時：平成20年3月5日(水)
場所：成蹊大学情報図書館
参加者：42名(申込者45名、欠席者3名)

ウ 研究助成 1件

- 10万円助成：瀬島健二郎ほか『日本の参考図書』WEB版開発のための調査

エ 会報の発行 第87号(平成19年6月)

オ 後援

- 第9回図書館総合展(後援)
平成19年11月7日(水)～11月9日(金)
パシフィコ横浜 展示ホール
- 平成19年度第93回全国図書館大会(東京大会)の共催(名義貸し)
平成19年10月29日(月)～10月30日(火)

(3)決算

<収入>

交付金	900,000円
雑収入	1,171円
繰越金	726,900円
計	1,628,071円

<支出>

会議費	28,092円
事業費	260,367円
事務費	322,695円
予備費	0円
計	611,154円

<翌年度繰越額>

収入済額	1,628,071 円
支出済額	611,154 円
差引翌年度繰越額	1,016,917 円

以上の平成19年度事業及び決算報告はすべて承認された。

2 平成20年度事業計画(案)及び予算(案)

【事業計画】

(1)会の運営

- ア 総会：平成20年6月24日(火)
会場：東京都立日比谷図書館地下1階講堂
- イ 理事会 年2回開催

(2)事業

- ア 講演会の開催 平成20年6月24日(火)
会場：東京都立日比谷図書館地下1階講堂
講師：斎藤 文雄氏(平凡社取締役)
テーマ：「世界大百科事典を改訂するまで」
- イ 施設見学会、IT講習会の実施
- ウ 研究グループ助成等 300,000 円
- エ 会報の発行 第88号(平成20年6月)
- オ 第10回図書館総合展(後援)

【予算】

<収入の部>

(単位：円)

科目	20年度 予算額	19年度 予算額	増 減	説明
交付金	900,000	900,000	0	日本図書館協会より
会費	0	0	0	JLA会員外の会費
雑収入	1,200	600	600	預金利息
繰越金	1,016,917	726,900	196,865	
計	1,918,117	1,627,500	290,617	

<支出の部>

(単位：円)

科目	20年度 予算額	19年度 予算額	増 減	説明
会議費	70,000	70,000	0	総会・理事会資料
事業費	780,000	581,000	199,000	研究助成、謝礼、会報他
事務費	711,000	550,000	161,000	総会通知職員費
予備費	357,117	426,500	△ 69,383	
計	1,918,117	1,627,500	290,617	

以上の平成20年度事業計画及び予算は、原案どおり承認された。

平成21年度総会資料

◎ 平成21年度 事業計画 (案)

I 会の運営

1 総会

日時：平成21年7月1日(水)
午後2時～3時

会場：都立中央図書館 多目的ホール

2 理事会

第1回 平成21年5月11日(月)

- ・平成21・22年度役員選出(案)について
- ・平成20年度事業報告について
- ・平成20年度決算について
- ・平成20年度会計監査報告について
- ・平成21年度事業計画(案)について
- ・平成21年度予算(案)について

第2回 平成22年3月

- ・平成21年度事業について ほか

II 事業

1 講演会の開催

日時：平成21年7月1日(水)
午後3時～4時30分

会場：都立中央図書館多目的ホール

2 施設見学会の開催

11月頃を予定 場所：未定

3 講習会

9月頃を予定 場所：未定

4 研究助成 210,000円

[内訳] 随時的研究 (@10万円を上限とする)
継続的研究 (@5万円を上限とする)

5 会報の発行 第89号 平成21年6月発行

6 平成21年度第95回全国図書館大会

日時：平成21年10月30日(金)

会場：明治大学アカデミー・ホール

7 第11回図書館総合展(後援)

日時：平成21年11月10日～12日

会場：パシフィコ横浜

※ 講演会、講習会、見学会、研究助成等の詳細、及び募集方法等につきましては、日本図書館協会のHP及びメールマガジン、または都立図書館のHPなどでお知らせいたします。

日本図書館協会 (<http://www.jla.or.jp/>)

都立図書館(<http://library.metro.tokyo.jp/15/15930>)

◎ 平成21年度 予算(案)について

平成21年4月1日～平成22年3月31日

1 収入の部

(単位：円)

科目	21年度予算	20年度予算	増 減	説明
交付金	900,000	900,000	0	日本図書館協会(JLA)より
会費	1,500	0	1,500	JLA会員外の会費
雑収入	1,200	1,200	0	預金利息
繰越金	698,271	1,016,917	△318,646	
計	1,600,971	1,918,117	△317,146	

2 支出の部

(単位：円)

科 目	21年度予算	20年度予算	増 △減	説 明
1 会議費	40,000	70,000	△30,000	
(1)総会費	20,000	40,000	△20,000	総会開催通知の印刷・発送
(2)役員会費	5,000	10,000	△5,000	理事会開催に伴う雑費
(3)旅費	15,000	20,000	△5,000	理事会開催に伴う交通費
2 事業費	725,000	780,000	△55,000	
(1)講演会費等	50,000	50,000	0	講師謝礼等
(2)会報発行費	150,000	200,000	△50,000	会報印刷費用
(3)研究会費	300,000	200,000	100,000	IT講習会等
(4)研究グループ 助成費等	210,000	300,000	△90,000	随時的研究 @100,000 継続的研究 @50,000
(5)見学会費	15,000	30,000	△15,000	見学費用補助 @500×30名 15,000
3 事務費	500,000	711,000	△211,000	
(1)需用費	50,000	50,000	0	事務用消耗品等
(2)通信運搬費	305,000	450,000	△145,000	総会通知、事業広報
(3)職員費	130,000	191,000	△61,000	アルバイト賃金 @6,380×20日 127,600
(4)雑費	15,000	20,000	△5,000	
4 予備費	335,971	357,117	△21,146	次年度の総会費、会報発行費、研 究費を繰り越す必要あり
計	1,600,971	1,918,117	△317,146	

§ TLA会員登録について §

TLAでは会員の申込を受付けております。まだ会員でない図書館の方々に、TLA会員登録について、次のようにお知らせください。

日本図書館協会加入の東京地区会員については、自動的にTLA会員としての登録をいたします。それ以外の方で入会申込の方は会費が必要です。(年会費500円=普通会员)

入会を申込まれる方は、事務局まで、ご連絡ください。

発行

東京都図書館協会

〒106-8575 東京都港区南麻布5-7-13

都立中央図書館内

TEL 03-3442-8451

平成21年7月2日

【お詫びと訂正】

会員の皆さまには、本会報を6月1日付けの「平成21年度 東京都図書館協会 定期総会及び講演会通知の開催について」と同封して送付させていただいたところです。

ところで、本会報に平成21年度総会資料を掲載させていただきましたが、9頁及び10頁の「平成21年度予算(案)について」、「1 収入の部」及び「2 支出の部」の「21年度予算」及び「増 △減」の欄の記載数字に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

【正誤表】

	正		誤	
	21年度予算	増 △減	21年度予算	増 △減
9頁 収入の部				
繰越金	698,271	△318,646	696,226	△320,691
計	1,600,971	△317,146	1,598,926	△319,191
10頁 支出の部				
4 予備費	335,971	△21,146	333,926	△23,191
計	1,600,971	△317,146	1,598,926	△319,191

なお、平成21年7月1日(水)の総会では、正しい数字で説明し、ご了承いただきました。

また、この「東京都図書館協会」のページに掲載したものは、正しい数字に訂正して掲載しています。